

副 本

令和元年度 第4回吉川市総合教育会議録

令和元年10月1日（火）

令和元年10月1日 令和元年度 第4回吉川市総合教育会議

開会の日時	令和元年10月1日 午後1時00分
閉会の日時	令和元年10月1日 午後2時20分
会議開催の場所	吉川市役所305会議室
<p>会議に出席した構成員の氏名</p> <p>吉川市長 中原 恵人</p> <p>吉川市教育委員会 教育長 戸張 利恵</p> <p>教育長職務代理者 神田 美栄子</p> <p>教育委員 小林 照男</p> <p>教育委員 中島 新太郎</p> <p>教育委員 鈴木 真理</p>	
<p>構成員以外の出席した者の職・氏名</p> <p>○市長部局の出席者</p> <p>副市長 椎葉 祐司</p> <p>政策室長 野尻 宗一</p> <p>○教育委員会事務局の出席者</p> <p>教育部長 中村 詠子</p> <p>教育部副部長兼学校教育課長 佐藤 勝俊</p> <p>学校教育課学校支援担当主幹</p> <p>兼少年センター所長 菊名 久子</p> <p>教育総務課長 染谷 憲市</p> <p>生涯学習課長 宗像 浩</p> <p>教育総務課課長補佐兼管理係長 石田 和親</p> <p>学校教育課学校支援担当 広井 毅</p>	
傍聴人 4人	
<p>会議に付議した事項</p> <p>(1) ICT教育環境の整備について</p>	

○中村教育部長 ただいまから令和元年度第4回吉川市総合教育会議を開会いたします。
傍聴人はいらっしゃいますか。

(傍聴人入場)

議事に入る前に、傍聴上の注意を申し上げます。受付でお配りしました傍聴要領をお読みいただき、遵守していただきたいと存じます。また傍聴要領に反する行為をした場合には退場していただくこととなりますのでご注意ください。それでは本日の会議録の署名委員を決めたいと存じます。「吉川市総合教育会議運営要綱第5条第3項」の規定により、中島委員、鈴木委員にお願いしたいと存じますが、よろしいでしょうか。

[「了解」という声あり]

○中村教育部長 本日の協議事項はICT教育環境の整備について市長と意見交換をしていただきます。会議時間は概ね1時間30分とさせていただきます。それでは市長から開会の言葉をいただきます。

○中原市長 本日はICT教育整備についての会議ではありますが、私は就任当初から力を入れようと言っておりました。けれど教育理念がしっかりしたなかでのICT教育であることが重要ですから、これまで教育大綱をつくり、学校現場に理解していただく時間を費やしてきました。そうした中、今年5月30日に市職員と共に文部科学省の大臣も視察に訪れた、つくば市の小中一貫校「みどりの学園」を訪問しました。視察し、一番感じたのは、機材が揃っていることもありましたが、それよりもタブレットなどを使って子供たちが、しっかりと私たちにプレゼンテーションをしてくれる姿でした。まさに私たちが求めている非認知能力とICT教育が一体になっている、そういう意味でも全国的に評価をされているのではないかと思います。しかし、当市の現状としては、資器材の整備が追いついていないところからスタートですので、今日はそうした機器の整備も含めて皆様からご意見をいただければと存じます。この時期に開催するということは、来年度の予算に反映をしていきたいということからであり、慎重に審議をいただきたいと思います。本日もよろしくお願いたします。

○中村教育部長 ありがとうございます。それでは、これより進行につきましては中原市長にお願いしたいと思います。

○中原市長 それでは資料の説明からお願いします。

○染谷教育総務課長 吉川市ICT教育環境の整備について説明します。教育委員の方々に、今年7月31日に事業者から今後の小中学校におけるICT教育をイメージしたタブ

レット端末・大型提示装置・無線LANを使用した学習、授業支援、プログラミングソフトのデモンストレーションとICT支援員の活用についてご覧いただきました。教育委員会としては、デモンストレーションのイメージに基づき検討してまいります。

【以下、資料「吉川市のICT教育環境の整備について」説明】

○**中原市長** 今後、ICT教育環境の整備時期や内容についてどのように考えていますか。

○**染谷教育総務課長** 小中学校のICT教育環境整備については、来年度中に全小学校、再来年度に全中学校を予定しています。ただし先行して吉川中学校は今年度中に整備いたします。整備内容は学習者と指導者用としてキーボード付きタブレット型端末を導入し、超高速インターネット及び無線LAN環境、大型提示装置、実物投影機を整備し、ICT支援員の配置を検討しています。

○**小林教育委員** 小中学校のICT環境を整備することに肯定的です。配付した資料は、2015年に東京大学へ幼児教育カンファレンスの中間報告として提出した資料です。当園が2013年からICTを保育の中に導入後、様々な課題が出てきました。タブレットは直感的な入力ができるので、キーボードがなくても操作できるだろうという目論見で導入を進めました。具体的なカリキュラムが全く示されておらず、教える先生に課題がみつかりました。「タブレットを使いこなせる人」と「使いこなせない人」の差があり、指導力のある先生は工夫し活用を進め、興味のない先生は子どもに渡すだけという状況です。その後、教育の平準化を図るため次のカリキュラム作成時、ICT能力が高い先生を集め、指導力の向上を中心的に話し合いました。専門用語のSociety5.0やシンギュラリティというような言葉が出てくるため、理解された若い先生が中心となって教えていく環境を作っていくという状況で進めました。今はそれを広げている状況です。職員は約800名おりますが、最初に始めたのは2名です。

3人に1台ということですが、初期段階は6人に1台でも大丈夫な状況でした。1人1台は望ましい環境ですがICT教育における「協働」を考えると、1人でプログラミングを考えるより複数人で1台にすると様々な考えが出ます。また、グループで成果を出す場合、1人1台より数人で1台の方がコミュニケーションは活発になります。進めていくうちに課題になったのが、子ども、先生、家庭の三位一体のバランスです。ICTを保育、教育の中に導入すると他の教育を省略するのではとイメージしがちであり、例えば「ICTには芸術性がない」、「コンピュータを触り始めるとコミュニケーションができなくなる」というように何かに代替されてしまうものだと一般的には捉えられがちです。これからの

時代はICT抜きでは何も語れないという事実、コンピュータが人間に代わって何かをやるのではない、ということでこの冊子を保護者に配りました。またカリキュラムも告知しました。ただ告知することなく、成果がこんなところに出ている、ということも告知しました。実際にあったのは、子供たちが空を見て雲が動いているか疑問に思った時、タブレットにタイムプラスという機能があるよね、と気づき、雲を撮っておけばいい、それを早送り再生すると雲が動いているのが良く見えると実践できました。タブレット、ICTを子供たちは使いこなし、我々は凄いなと思い、その後、保護者にICTは有効なものだと知らせています。

小中学校にICTを導入することは非常に良いことで先進的な取り組みですが、これを学校だけでなく、地域に発信することを最初から計画の中に取り込んでいくことが必要です。また、ギガネットワークを導入するのであれば、市民に告知をし、教育に対する理解を得て家庭からの協力をもらい結果的に他の市でやっていないというまちの魅力を上げることを同時に考えていけば良いと思います。導入後、先生方の指導力の平準化というところは必ず課題になるため対策を講じるべきです。なお、当園のタブレットは導入して約5年ですが、ほぼ使えなくなりました。OSはアップデートされ、最初に導入したハードウェアが今のOSに対応できず、アプリが進化するため新しいOSでなければ使えないという問題がありました。例えば電子黒板なら約10～20年は使えるイメージがあるのですが、タブレットは5年で使用が難しくなるため、他の教育資材に比べたらサイクルが早いということを念頭に置く必要があります。

○**中原市長** ありがとうございます。指導者ですが、ICT支援員のサポートは民間企業がやりますか。

○**広井副主幹** ICT支援員は民間企業からの派遣です。毎月2回、終日学校に居ただく体制を検討しています。一般的な支援員は機材の保守点検を行います。ICT支援員は授業構成に関わることを考えています。

○**中原市長** すべての学校に月2日来て、授業を視察し、教員をサポートしてくれますか。

○**広井副主幹** 国が基準とするのが4校に1人のため、全学校に月2日入るような計画であり、授業の視察やサポートをします。

○**中原市長** 子供を指導する先生の知識のカスタマイズについてはどう考えますか。

○**広井副主幹** 情報教育推進委員会という市の情報担当が集まる会議や各学校の教務主任が集まる教育課程検討委員会があります。そのような場を活用し、事業者から説明を受け、

校内研修などを実施しています。しかし、指導する教員全員のレベルを上げることは困難ですが徐々に学校で核なる人をつくり、拡張する体制と考えております。

○**小林委員** 今の先生たちは、ICT教育の指導方法を学んでいないため、ゼロからのスタートです。私たちも同様であり、どのように指導すればと考え、全職員に対してアンケートを取りました。ICT保育は面白そうだという一方、実は苦手だという人が多いため、アプリを開発している会社に依頼し、指導者会を開催しました。しかし専門用語が分からず、用語の理解から始めました。

○**中島委員** 来年度は小学校に配置されるということですが、授業を全クラスで行うということは、全教員の指導力が必要ですがどうお考えですか。

○**広井副主幹** 指導する力に個人差があります。

○**中原市長** タブレット型端末の台数と他市の状況はどうですか。

○**染谷教育総務課長** 国の目標値は3クラスに1クラス分程度、全国平均が5.4人に1台、埼玉県平均は7.4人に1台です。近隣市町は8人から10人に1台です。現在検討しておりますが、10人に1台を想定しております。ただし、どこの市町村もタブレット端末を導入することから供給台数の不足が懸念されます。

○**小林委員** 当園は導入時、1人1台の環境を目指し、今は1人1台の環境に近づいてますが、1人1台使わせているかというところではなく、数人に1台や場合によっては40人に1台ということもあります。パソコンというと1人1台になってしまうのですが、タブレットであれば数人に1台でも問題なく、現在、コピーリースクールよしかわみなみとコピーリースクールよしかわステーションで取り組んでいますが、ステーションのみ導入し、2年で数十台という環境を作りました。なお、タブレットなどの更新は1年間で30～40台ずつ、古くなったものから更新しています。小学校の児童数と保育園の園児数は全然規模が違うのですが、約100台中10%～20%ずつ更新をしている状況です。

○**中原市長** 分かりました、ありがとうございます。学校と子供たちと親という視点を持つべきということですが、小林委員のおっしゃるとおりだと思うので、例えば吉川市のICT教育のあり方や方向性というのを保護者、子供、周りの大人たちが理解しやすいものが欲しいです。教育大綱があって、非認知能力を高めていくということを基にICTを取り入れるという道筋をしっかりと説明できれば吉川市の教育への注力を理解してもらえることにつながります。みどりの学園は駅近くにあり、その教育が全国的にも有名になったことで、土地の値段が上がり、つくば市に若い夫婦の転入が増加していると聞きました。

○**中原市長** 保護者の観点から鈴木委員どうですか。

○**鈴木委員** 教育に熱心な家庭の親は子供を私立に行かせがちなので、吉川市がこういうものに力を入れているというのが前面に出れば、私立に行かせようという考えの方が減っていくのではないかと思います。これから子育てをしようとしている保護者にはすごく魅力のある街づくりになるし、そこで子供たちの学力も底上げになればさらに良いと思います。

○**中原市長** そういう意味では生涯学習課長どうですか。三輪野江小の放課後子ども教室にタブレットを導入し、旭小でICT教育を先行しているのは、しっかりとした教育の柱を建てるためですが、親御さんや地域に伝わっていますか。

○**宗像生涯学習課長** 三輪野江小のタブレットの活用状況ですが、放課後子ども教室は登録者が約80人おり、毎回約70人の子供たちが来ています。学校の校風もあるのかもしれませんが、きちんと譲り合い、一人の子が占有するということはない状況です。また、そこにプログラミングのソフトで「スクラッチ」と言われる命令を組み合わせることによって簡単な車を動かせるようなものを入れたりしているのですが、思ったより子供たちがうまく考えて使えているんだなというのは先ほど小林委員がおっしゃった通りです。ICT教育の環境が整備された際にはタブレットを使用し、社会教育での活用を考えます。学校と公民館が複合化されている美南と平沼地区公民館で社会教育事業として、小学校のタブレットを使用し、こういう教育をしているということを伝えていけると考えています。

○**中原市長** 放課後子ども教室を地域に、「こういうことをやっているよ三輪野江は。」とアピールしてください。

○**宗像生涯学習課長** 分かりました。

○**中原市長** 旭小のタブレット授業について何かありますか。学力や成果など。

○**佐藤副部長** 今年度の全国学力・学習状況調査の結果ですが、旭小学校は各問の無解答率が他校に比べてとても低くなり、これはタブレット導入の成果とは言えないかもしれないのですが、「やるKEY」のソフトで「やり抜く力」に近い力が身に付いていたのではと思います。他校は記述式の問題だと無解答率が10%を超える問題が多くありますが、旭小は無解答率が10%を超えるものはありませんでした。そうしたのも一つの成果として見られるのかもしれないと捉えます。

○**中原市長** 神田委員いかがですか。

○**神田教育長職務代行者** 私も子ども園で子供たちを預かっていますが、ICTをやって

おらず、うちの園で特色あることを考えています。みんなができるわけではないなか、どうやって先生たちの力量を高めていくのかな、というのが大きな課題だと思います。

○**中原市長** 教育部にはICTの5か年計画がありますが、その中で今回提示されている形の整備は、3年分を凝縮した形ですが、方向性や到達地点は同じで、それを早足で進める計画になります。5年でやろうとしていたことを2年でやろうとしているということですね。

○**染谷教育総務課長** そのとおりです。

○**中原市長** 先生たちへのICT活用の教育も何年後にはこういう形を目指します、という5か年計画を作成してください。

○**染谷教育総務課長** かしこまりました。

○**中原市長** 先生方の知識力や指導力を身に付けるのに一番大切なことは何ですか。

○**中島委員** 一概には言えませんが、みんなでやるんだという意識を全体で盛り上げていくことが大切だと思います。

○**中原市長** 全体の流れを作ることも大切ですね。

○**中島委員** 指導者養成、地域への広報、カリキュラムなどの計画をきちんと立てて、全体を盛り上げていくことが大切だと思います。

○**中原市長** そういうことだと思います。保護者や一般の方が分かる資料と、教員の指導力アップを含めた数年間の計画をしっかりとつくり、進めて頂きたいと思います。

○**神田教育長職務代行者** 学校は必ず課題研修をやっています。ICTが苦手な人も頑張ろうという気持ちになりますので、ICTを使った校内研修を行って欲しいと思います。

○**中原市長** それは学校の中で、先生が他の先生方に発表するものですか。

○**神田教育長職務代行者** そうです。全体で見る、学年で見る、そういう研究会です。

○**中原市長** 市内研究発表会を是非開催してください。先生の成果が発表できるようになると、真似しようと思う先生が生まれると思います。

○**鈴木委員** 限られた準備期間の中で進めるため、管理職のバックアップのもと、各校のICTに精通された先生を中心に進めていくことが良いと思います。

○**中原市長** スペシャリストがいない学校がありましたら、すぐ教育長に報告していただいて、進めて欲しいと思います。

○**中島委員** ICTを使った研修を見せる機会を学校内でたくさん設け、お互いに見せ合うことが力になると思います。

○**中原市長** もう一度計画をしっかりと構築してほしいと思います。

○**小林委員** 先生の指導力を高めることもそうですが、早い段階で子どもにプレゼンテーションの機会があればと思います。まずは積極的にICTに取り組む先生を外部の人が表彰し、次の段階で子供たちのプレゼンテーション大会をやりましょう。切り離して考えるべきことは、「やるKEY」ではプリントなどをアプリケーション的に課題をやって前に進んでいくというICTの使い方、そこで教育の成果を数値化するのをやりやすくしているという意味でICTを使うというアプローチと、これから先アプリケーションは1年から2年でどんどん進化し、今使っているアプリを使いこなしたからといって、10年後それが何の役に立つのかと思います。だからアプリをうまく使うのではなく、ICT機器を上手に使えるようになれば良く、子供たちは使いこなし、片方で学習成果を計るICTと、ICTをうまく使いこなして生きていくという意味でのICTのあり方で、そうするとプレゼンテーションは学習効果ではなく、ICT機器を上手に使いこなし、上手にプレゼンテーションができ、他人とコミュニケーションを上手にとれることが必要であり、先生ではなく子供が実践し研究してしまうという。例えば市長杯のプレゼンテーション大会を公民館で開催し、保護者に成果が見えやすいと思います。

○**中原市長** 確かにそうですね。今の視点も必ず入れながら考えてください。機器の購入費はどうなりますか。

○**染谷教育総務課長** 5年間のリースで考えています。

○**中村部長** 国基準の3人に1台でやるとこのようになります。タブレットが一番費用を要します。

○**染谷教育総務課長** タブレット1台約5万円かかります。10人に1台と考えた場合には、小学校は1年間で約4200万円、中学校は約1800万円です。今後、国庫補助金等がないものか、国の動向に注視してまいります。

○**中村部長** タブレットなどは交付税措置されていますので、無線LAN環境の整備費などに補助金が出る可能性があります。

○**椎葉副市長** 交付税措置は、文部科学省があくまでも金額としては算定しましたというものでしかないですね。

○**中村部長** もうすでに交付税措置されているので、国は基本的に市町村で揃えるように言っています。

○**椎葉副市長** この計画にこれだけの金額がかかることになるというと、教育部としては

学校の大規模改修などもありますので、現実的な形で落とし込んでいけるよう、もう少し計画の熟度を上げてもらわないとならないです。その上で、市長部局の事業と競争することになります。

○**中原市長** 教育以外の要素を付け足す必要はありますか。

○**椎葉副市長** ICT教育の必要性、それに求める成果というのがどれだけアピールできるかが大切です。他の事業と比べた時にこちらの方が優先度が高いということになれば採択していくでしょうし、他の事業を優先する場合は、残念ながら計画どおりには進められないかもしれません。

○**中原市長** 子供たちへの教育の成果と目標をしっかりと計画してほしいと思います。

○**椎葉副市長** 教育委員会はそこが一番の押しでしょうから。そこをなるべく訴えて、事業としてこれから始めていけますよ、というのが成り立っていることが重要です。

○**中原市長** 子供たちの教育のために副市長が言ったような明確な目標と計画と成果を示して欲しいと思います。また、そのために国や県の補助金活用、買取かリース方式とするかなど、計画、金額を出して進めて欲しいと思います。

○**椎葉副市長** 子供たちにスポットを当てていけばよろしいかと思います。

○**中原市長** 色々な形で数字は出してください。エアコンを小中学校に設置し、約10億円かかりました。議会からは体育館へのクーラー設置の話が出ています。その他、大規模改修時に旭小と栄小のトイレ、水廻りの要望が出ていますが、これも約9億円かかります。どれを優先してやっていくのか順番を決めていかないと難しいと思います。

最後に教育長の考えを伺います。

○**戸張教育長** 市長をはじめ、このように莫大な費用がかかることについて、このテーブルに乗せて頂いたことに、本当にありがたいと思っています。また、ICT教育環境の整備については、31年度の全国学力・学習状況調査の結果を見ると、傾向として子供は使いたいのに十分に使える環境にないことが分かりました。この課題をクリアするためには、きちんとした環境を整備してあげなければいけない。これは市長はじめどの委員さんもおっしゃっていました。もう一つ考えなければいけないのは、指導力の問題です。人間が教えているのですから、これはICTに限らずどの教科でも得意不得意はありますが、やはり平準化していくためには、教職員一人一人の情報リテラシーを校長が把握し、ファシリテーターとして育てる人材を選出して確保すること。そして、ファシリテーターをしっかりと育てるための計画を立て、早期に各校に根付かせることを同時に進めることが重要です。

令和元年10月1日 令和元年度 第4回吉川市総合教育会議

市長から力強く「子供のために」「子供ファーストで」とおっしゃってくださったのを胸に、もう少し細かに進めていこうと思っています。よろしくお願いします。

○中村部長 それでは以上をもちまして、令和元年度第4回吉川市総合教育会議を閉会といたします。ありがとうございました。

吉川市総合教育会議要綱第5条第3項の規定により署名する。

令和元年12月20日

教育委員 中島 新太郎

令和元年12月20日

教育委員 鈴木 真理